

## 禁断の炉の中心

Dungeon 誌#167 掲載“Heart of the Forbidden Forge”

<http://www.wizards.com/DnD/Article.aspx?x=dnd/duad/20090610>

参考： <http://d.hatena.ne.jp/Tirthika/20090609>

作者： Luke Johnson / 適正レベル： 7 / 適正キャラクター数： 5 名 / 公開日： 2009,06,10 / 頁数： 31 / 備考： エベロン)

「ゴブリンどもを雇えば拙いことになるのはわかっていた。わかっていたのだ！ が、ジェリアへの崇敬の念が私を盲いさせ、わたしの言葉を封じた。いまや炉の奥深くで何ものかが目覚め、そうして私はというと、ジェリアの協力を確保するための人質としてこの場に縛り付けられているのだ。親愛なる読者よ、もしこの日記を手にしたならば、お願いだからこれをブレランドのキングズ・シタデルに持ち帰ってほしい それは聖務なのだ。ここで何が起こったのかを、そしてヴァルサスと彼女の手下のホブゴブリンどもがこの炉の秘密をダーグーンに持ち帰ってしまったに違いないということを、彼らに知らせねばならない」

キングズ・シタデルの新人、マルスの日記

ケチ・シャーラットのゴブリンたちは、“剣を守る者”の旗の下にダカーンの部族を結集させるために無数の計略を練っている。そのような計画のひとつに、“言葉を尊ぶ者”のゴブリンたちに先んじて、アッシュン・クラウンと呼ばれるアーティファクトを手に入れるというものがあつた。この一件については、とある冒険者たちの一団がゴブリンどもを倒してしまったのだが、それ以外にも計画は多々あり、そして着々と進んでいる。その中には、破壊された創造炉を、その中にいる禁断のクリーチャーごと手に入れてしまおうというものもある。そして、この計画について、“剣を守る者”たちは、まさかと思うような協力者を得ている ブレランドの政府のために働くはずの、とあるエラドリンのアーティフィサーを。

『禁断の炉の中心』は、5人の7レベルキャラクター用の、エベロン・キャンペーン・セッティングを用いたD&Dのアドベンチャーである。PCたちが既に『失われた王冠を求めて』をひととおり遊んでいた場合、このアドベンチャーは完結したシナリオの後に続く冒険として至極容易に繋げることができる。とはいえ、この『禁断の炉の中心』を遊ぶに当たって、キャラクターたちが『失われた王冠を求めて』に登場している必要はない。『失われた王冠を求めて』とは別のPCを用いてこのアドベンチャーを遊んでもよいし、また、本作は他のキャンペーン・セッティングにも容易に対応可能である。

### 冒険の背景

最終戦争の最中の話。今ではモーンランドと呼ばれている場所の国境、ダーグーンにほど近い場所にあつたとある創造炉は、ウォーフオージドという種族を作り出そうとする実験において、非常に重要な地位を占めていた。かつて、その炉では多くのプロトタイプが作り出され、それこそが今日のウォーフオージドを作り出す道を開いたのである。その後も、その炉ではそのまま実験が続けられた。ところで、件の炉の監督者であるヒースタス・

ド・カニスはさらに死霊術にも興味を示していた。そうして、死霊に関わるわざとカニス家の技術を組み合わせることで、さらなる新たな存在を作り出せないものかと考えていたのである。ヒースタスと彼の部下たちは、ウォーフォージドのプロトタイプや種々の人造について、さらなる実験を続けていた。彼らは、その実験の大半を、カニス家の公式な監視の及ばぬ場所へと広げていった。

他の勢力にとっても、炉の重要性は失われてはいなかった。“悲嘆の日”が最終戦争を終結させる少し前、非正規の特殊部隊　これは所属先のない傭兵の一団だったと考えられているが　が、カルナス政府に雇われ、件の炉の入り口を破壊してすべての人々をその中に閉じ込めた。ヒースタスと部下のアーティフィサーたちは、緩慢に死んでいった。

カルナスの非正規部隊が作戦成功の報せとともにサイアリ内を移動していたとき、“悲嘆の日”の衝撃が彼らを襲った。以後、彼らの姿を見たものはいない。次々と起こる事件を取り巻く混沌の中で、ダーグーンとの国境にあった創造炉はほとんど忘れ去られた。この炉の存在を知っているカニス家にとってさえ、その実際の所在地はサイアリに保持されていた文書の中にのみ記されたもので、すなわち失われてしまったのだ。少なくとも、カニス家の公式見解ではそうになっている。

数ヶ月前、ブレランドのキングズ・シタデルで働いていたエラドリンのアーティフィサー、ジェリアは、最終戦争の終結以前から伝わっている古い文書を検索しているときにこの炉に関する記述を発見した。彼女はまたとある文書の写しも見つけ出した。それには、カニス家のアーティフィサーたちが最終戦争の趨勢を変えうる何ものかを作り出そうとしていたことを示していた。それはウォーフォージドの潜入部隊、そしてドラゴンの形をした自律式の急襲用人造だというのである。“悲嘆の日”以来、初めて人の目に触れるこれらの文書は、件の炉ではプロトタイプの作成さえ行なわれていたことを示していた。

もし雇い主にこの発見について報告してしまったら、彼らはキングズ・シタデルから相応の調査団を派遣してしまい、ジェリア自身がこの決定的な発見から得られるものはほとんどないだろう。彼女はしかるべき名誉を欲していた。彼女はもっと現実的な立場で国家を支えたいと考えていた。というわけで、件の炉をブレランドのために手に入れるのに、シタデルの手助けは要らない　と、彼女は判断したのである。

けれど、自分ひとりではどうしようもないことも、彼女の片腕にして見習いのマルスがいれば十分というわけでもないことも、彼女は理解していた。彼女に必要なのは、中立の第三者たち　すなわち、彼女の計画が完遂するまで彼女を裏切ることのない戦士たちだった。というわけで、彼女は、ダーグーンで評判の良いホブゴブリンの傭兵団を雇い入れた。彼らのリーダーの一人、ヴァルサスがジェリアと取引をし、合意に達したのだ。つまり通常の三倍の給料と引き換えにゴブリンたちは、ジェリアが件の炉を探し、設備を整えて動かす手伝いをする、そしてその炉は自分たちのものでなくブレランドのものであるとして認める、というのである。そのかわりに、ジェリアは自分の知りえたことは何でもこの傭兵団のアーティフィサーに教えるという約束をした。この新しい“仲間”が危険であることはジェリアも重々承知していたが、自分には連中が扱いこなせるとも感じていた。が、焦っていたせいで、ヴァルサスと彼女の手下たちが中立とは程遠い連中であるという噂を拾うことに彼女は失敗していた。彼らは傭兵団という触れ込みを隠れ蓑にして活動する“剣を守る者”たちだったのである。

仕事の出だしは上々だった。炉の建物の入り口の崩れ方は手に負えるものではなかったので、ジェリアと彼女の新しい仲間のゴブリンたちは、近くの崖から穴を掘りぬいた。新

しい洞窟からは、炉へとつながる小さな自然洞窟に入ることができるようになった。

中に入ると、ジェリアと“剣を守る者”たちは種々の人造のプロトタイプと、そして今ではフォーブレイスと化したヒースタス・ド・カニスを発見した。ジェリアとヴァルサスが炉の再始動を計画しているというので、ヒースタスは彼らと共に働くことを承諾した。何もかもがうまく進んでいた。ジェリアとヴァルサスが建物の中心へとたどり着くまでは。そこで彼女たちは創造炉と、その隣に立つ、大きな図体をしてびくりとも動かない、ドラゴンのプロトタイプの姿を見つけたのである。

数日間さんざん苦労した挙句、ジェリアはついに件のドラゴンを動かすことに成功した。そしてドラゴンが目覚めるのと同時に、創造炉も復活したのである。機械が唸り、歯車が回る。が、炉が損傷しているのも確かなのだった。「我が名はカルマキア」そうドラゴンは言った「我が心臓はこの炉と同一なり。また、今より汝らは我がものなり」つまり、休眠状態に入る前に、このドラゴンは自身と炉を繋げていたのである。

カルマキアはすぐに仕事を始め、より小さなドラゴンの姿をした人造。すなわち彼女の“子供たち”を作り始めた。ヴァルサスはジェリアを裏切ったが、今後役に立てるために彼女とその見習いを生かしておくことにした。このホブゴブリンの指揮官はこう判断したのである。カルマキアとその“子供たち”は、“剣を守る者”たちが敵を殺し、他のダカーンの部族たちにその力を示す助けとなるだろう、と。

## 冒険の概略

さまざまな導入のうちどれを経るにせよ、PCたちはこの創造炉が一度は埋もれて忘れ去られたこと、そして再び見出されたことを知る。調査をする間に、彼らはゴブリンや人造、アンデッドと戦って血路を切り開き、数々の古い罠を潜り抜ける。そうして最終的にヴァルサスと、そして炉の背後に潜む真の力であるカルマキアと対面する。PCたちはまた、ジェリアとその助手を、ドラゴンの姿をした人造や“剣を守る者”たちの鉤爪の中から救い出してやることもできる。

## 冒険の導入

PCたちがモーンランド国境の創造炉に到着するところから冒険は始まる。ここまでの話は手短かに済ませるべきだが、もし君（と、プレイヤーたち）が望むなら、ここまでの道の途中で1回遭遇を挟んでも良い。PCたちは以下の導入のうちひとつ以上に基づいて、この炉までやってきたのである。

### 導入：“言葉を尊ぶ者”の警告

PCたちがケチ・ヴォラー（“言葉を尊ぶ者”のゴブリンたち）と何らかの繋がり『失われた王冠を求めて』を遊んだときにできたものを持っているなら、なにやら心配事を抱えたようなゴブリンが彼らに接触してくる。“言葉を尊ぶ者”のゴブリンたちは、ヴァルサスの“傭兵団”が、実は“剣を守る者”の実行部隊であると特定しているのだ。この“傭兵団”が、現在とあるエラドリンのアーティフィサーに雇われていることも彼らは突き止めている。彼らはジェリアが実はどういう人物でどういう目的を持っているかは知らないが、件のアーティフィサー女史とその雇われ人たちが炉のほうへと行ったことは知っている。“言葉を尊ぶ者”たちが偵察に出した一団は帰って来なかったが、炉の場所を特定するのに十分なだけの情報をPCたちに渡すことはできるのだ。

**主要クエスト：**炉を発見し、“剣を守る者”たちがその秘密を手に入れることを防ぐ。

**副次クエスト：**エラドリンのアーティフィサーが何ものであるかを探り出し、彼女がこれ以上“剣を守る者”たちのために働くことを防ぐ。

### **導入：エージェントの失踪**

『失われた王冠を求めて』を遊んだキャラクターたちであれば、おそらくシタデルと協働し、その密偵たちと好ましい関係を結んでいることだろう。また、ダーグーンのゴブリンの部族たちとも、彼らをこの仕事の競争相手として認識するだけの好都合な関係を結んでいるに違いない。何にせよ、ブレランド政府からの情報により、PCたちはシタデルがある優秀なエージェントのことを心配していることを知る。ジェリアという名のアーティフィサーが失踪したらしい。彼女は最近、とある事件に関わった関係で旧サイアリにおける戦争の調査を行っており、最後の報告書によれば、ゴブリンの傭兵団と共にダーグーンに行ったらしい。ジェリアの仕事が拙いことになったのではないかとシタデルは疑っており、ジェリアを探し出して生きて連れ帰るように、あるいは彼女が遺したものをすべて持ち帰るようにと命じてPCたちを送り出すのである。PCたちは最終的に彼女の後を追って炉へと向かうことになる。

**主要クエスト：**ジェリアを探し出し、必要ならば彼女をゴ布林から救い出す。彼女をシタデルへと連れ帰る。

**副次クエスト：**ジェリアの仕事が何だったのかを調べ、その秘密をブレランドに持ち帰る。あるいはそれからブレランドを守る。

### **導入：カニス家の秘密**

ほとんどの人々は件の創造炉のことを忘れ果ててしまったが、カニス家は覚えている。ただ単に、まだ復興のための人員を送り込んでいないというだけの話だ。少なくともカニス家の中のある一派は、誰かがこの炉への道を掘りぬいたことを知った。家の秘密を敵の手に落としてはならない。カニス家の代理人はPCたちを呼び集め、何が起こったかを調査すること、そして“カニス家の権益が損なわれないように”することを依頼する。もしPCのうちの誰かがこの家の血を引いているなら、これは仕事というよりは義務となる。

**主要クエスト：**今後の使用に備えてカニス家の設備を守り、その秘密を保ち、そこに関わる総ての脅威を排除する。

**副次クエスト：**炉の中の危険を排除する一方で、総ての技術の進歩の結果（たとえばカルマキアなど）の機能を可能な限り維持する。